



Japan Healthcare
Business Contest

2024

2024年1月16日(火)

会場:大手町三井ホール

提供:経済産業省

後援:厚生労働省 / 文部科学省

Healthcare

ジャパン・ヘルスケア
ビジネスコンテスト2024



Healthcare

ジャパン・ヘルスケア ビジネスコンテスト2024

2024年1月16日(火) 会場:大手町三井ホール

Message

ご挨拶

我が国は、世界に先駆けて超高齢社会に突入し、社会保障費の増加や、生活習慣病や認知症の患者数の増加、医療格差、介護施設または人材の不足等の社会的な課題が現実となっており、それらの課題を解決し、国民の健康に対する多様なニーズに対応する新たなヘルスケア産業の継続的な創出と発展が必要となっています。経済産業省では、ファンドや民間事業者等の『サポート団体』や『連携イベント』等と有機的なネットワークを構築し、それらとの連携によって事業創出に必要な資金供給や優良事例の顕彰等を行うことでヘルスケア分野におけるエコシステムを構築することを目的として、「ジャパン・ヘルスケアビジネスコンテスト」を開催してきました。

本コンテストを通して、ベンチャー企業等の自立的かつ持続的な成長を促すことに加えて、ヘルスケア産業の大きな潮流を生み出すことを目指します。また、医療・介護の現場等で生まれたアイデアの発掘や、専門職や学生等への新規参入の機会の提供を通して、将来、課題解決型ビジネスの担い手としてヘルスケア業界で活躍するプレイヤーが増えていくことを期待します。

経済産業省 商務・サービスグループヘルスケア産業課

Index

インデックス

ご挨拶・インデックス	P01
イベントプログラム	P02
ビジネスコンテスト部門	
ファイナリスト 事業内容概要	P03
審査員	P09
アイデアコンテスト部門	
優秀賞 受賞者プレゼン	P11
講評者	P14
サポート団体	P15
関連イベント	P23
Healthcare Innovation Hubについて	P25

Event Program

イベントプログラム

オープニング ————— 13:00～13:10

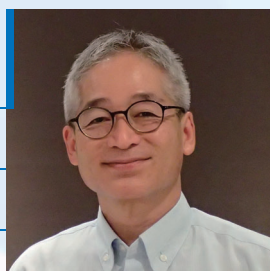
審査員紹介・サポート企業紹介 ————— 13:10～13:15

ビジネスコンテスト部門 最終審査(前半) ————— 13:15～14:15
(プレゼン10分・質疑応答7分)

P.03 13:15～

P.04 13:35～

P.05 13:55～



バイオチューブ株式会社
中山 泰秀氏



iSurgery株式会社
佐藤 洋一氏



PRD Therapeutics株式会社
細田 莞爾氏

休憩 10分

ビジネスコンテスト部門 最終審査(後半) ————— 14:25～15:25
(プレゼン10分・質疑応答7分)

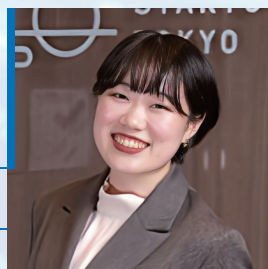
P.06 14:25～

P.07 14:45～

P.08 15:05～



株式会社MentaRest
飯野 航平氏



株式会社asai
浅井 しのの氏



EMC Healthcare株式会社
浦上 悟氏

休憩 10分

アイデアコンテスト部門 優秀賞受賞者プレゼン ————— 15:35～16:15
(発表8分、講評3分)

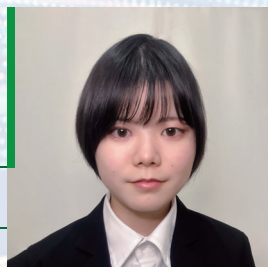
P.11 15:35～

P.12 15:49～

P.13 16:03～



株式会社DeaLive
牧原 正樹氏



山崎 美紗氏



東京農工大学
関口 翔斗氏

休憩 20分

表彰式 ————— 16:35～17:00

クロージング ————— 17:00～17:05

体内で集める第3の幹細胞治療による再生医療の一般化への第一歩：下肢救済



登壇者プロフィール



氏名:中山 泰秀

役職:代表取締役

1991年:大阪大学工学研究科博士課程修了

1991-2018年:国立循環器病研究センター研究所研究員、室長・北海道大学、大阪大学、関西大学客員教授

2016-18年:脳動脈瘤塞栓治療器具を開発し治験を完了

2017年:バイオチューブ株式会社起業

2018年:代表取締役に専任

2022-24年:バイオチューブ再生血管を開発し治験を実施中

2023-24年:バイオシート幹細胞集積器の治験を実施中

団体概要

2017年国立循環器病センター研究所の中山泰秀(現代表)がスピンアウトして設立。体内で移植用組織を作製する独自技術である生体内組織形成術に特化した医療ベンチャー。以下の開発に取り組む。

- 重症下肢虚血症に対する動脈バイパス用の再生血管(2019年先駆け審査指定制度に指定、治験実施中)
- 糖尿病性足潰瘍に対する創閉鎖治療用の多能性幹細胞含有貼付材(治験実施中)
- その他、冠動脈用血管、大動脈、透析血管、心臓弁膜、心筋、気管、リンパ管、尿管、胆管なども開発中

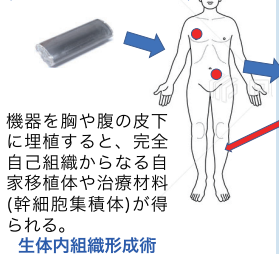
問題、背景

受精卵を用いるES細胞や遺伝子導入によるiPS細胞と言った人工的に作る第一世代の幹細胞には、倫理面や安全面での問題が指摘される。体内に存在する間葉系幹細胞や多能性幹細胞を体外で分離、増殖する第二世代によって臨床の多くが進められている。体外での細胞操作が必須であるためなどから超高額医療となり、国民皆保険下であるもの全国民が平等に治療を受けることができず、再生医療だけが特別扱いは許されない。

新規性、革新性

骨髄1mL中に1~2.5億個存在する細胞中に含まれる間葉系幹細胞の量はわずか10~100個しか含まれておらず、その中の多能性幹細胞の存在は0.3%、つまり骨髄細胞何億個に1個程度しかない。しかし本開発機器を皮下に数週間埋植するだけで数百万個の多能性幹細胞を集めることが確実にできる革新性を有する。

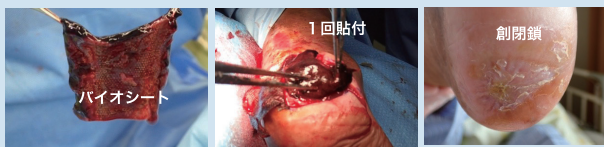
多能性幹細胞集積器 (バイオシートメーカー)



多能性幹細胞集積体 (バイオシート) 創閉鎖材による下肢救済

糖尿病(患者数は約1000万人)、米国では、糖尿病患者の25%が生涯に足潰瘍を合併し、年間2%の糖尿病患者に足潰瘍が発症し、その15%以上が下肢切断に移行するといわれている。

バイオシートは創傷治療材として潰瘍部に1回貼付するだけ。多能性を含む幹細胞や増殖因子、サイトカインなどが豊富に含まれ、腫でも保存的に創閉鎖まで期待できる。



問題解決の重要性：社会的意義と緊急性への対応

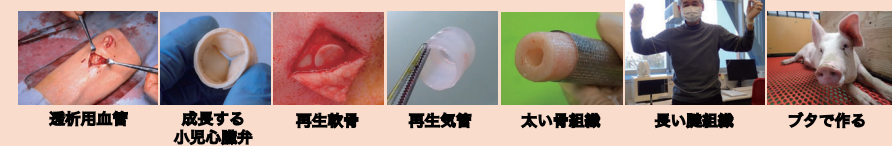
足切断となると、社会活動が大幅に制限され、介護負担が強えられるだけでなく、1年後の死亡率は25%、対足切断率は25%と、生命予後が非常に非常に悪い。→ 迅速な患者救済が急務。現在治験実施中であり、最短で2025年の薬事申請、2026年の事業化をめざす。

事業の成長性

- 脳梗塞、心筋梗塞、脊髄損傷、脳性麻痺、筋萎縮性側索硬化症など重篤性の高い疾患に対する安全性の高い確実な治療法を提供できる。
- 多能性幹細胞の有する免疫細胞の誘導効果によるがん治療への有効性も期待される。
- 得られる多能性幹細胞集積体の骨や軟骨への体内分化能を調べており、臓器修復治療への応用も有望と考える。
- 日本人の死因ランキング上位の悪性新生物、心疾患、脳血管疾患に対する新たな有効な治療選択肢を提供することで健康寿命の延長できる。

事業の将来性：近未来に実現可能な世界標準の一般外科となり得る経済的な自己完結型治療

生体内組織形成術の応用によって、成長性を有する小児外科材の提供など移植医療の選択肢の多岐化、幹細胞治療の一般外科レベルへの簡素化、再生と再発防止を兼ねるがん治療など、モノやカネに頼らない医療も実現する。



治療に十分量の多能性を含む幹細胞を単に皮下に数週間埋植するだけで得ることができる画期的な医療機器の事業化を提案する。活性を維持した状態で採取直後に利用できる簡便性と安全性を有する。既存の細胞治療で必須な細胞分離、増殖のための施設や装置が必要ないため、圧倒的にコストパフォーマンスに優れる。まずは治験を開始した下肢救済分野において2025年の

薬事申請、2026年の事業開始をめざす。日本人の死因ランキング上位の悪性新生物、心疾患、脳血管疾患に対する新たな有効な治療選択肢を提供することで健康寿命を延長できる。自分の体は自分で治す新しい治療概念の日常化によって、超高額化する再生医療を転換させ一般化して普及させる新時代を実現する。

胸部 X 線写真から 骨密度を推測する AI 医療機器による 骨粗鬆症診療の夜明け

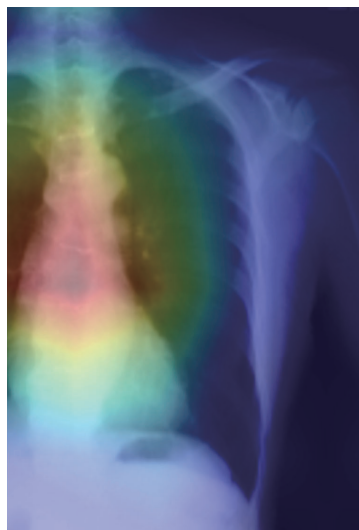
登壇者プロフィール



氏名: 佐藤 洋一

役職: 代表取締役医師

2014年 三重大学医学部卒、整形外科・リハビリ専門医。名古屋大学関連病院勤務、2019年からAI研究開始。2020年 iSurgery株式会社創業、代表取締役。AI関連の学会賞4回受賞。名古屋大学大学院医学系研究科 客員研究員を兼務。



骨粗鬆症の治療介入率は約20%に留まり、多くの骨折患者や要介護患者が発生し、医療費介護費は約1兆円を超える。治療介入率を向上させるため、胸部X線写真を活用した骨粗鬆症スクリーニング検査を考案した。全国50施設から収集した60,000件の医療データから開発したAIアルゴリズムは、従来の検査機器と同等以上の精度を獲得した。基礎技術をまずは「胸部X線写真から骨の状態を解析するAI医療機器」として薬事



胸部X線写真から 骨粗鬆症を検査する AI医療機器

認可を得て、2023年4月、世界で初めて販売開始となった。保険診療、一般健診、企業健診、住民健診で活用され、上市後半年間の累積検査数は25,000件を突破した。企業健診や住民健診における事業検証では、効率的な患者発見と医療費削減効果が示された。この知見を高齢化社会の課題に直面する海外諸国にも届け、世界全体の健康に寄与したい。

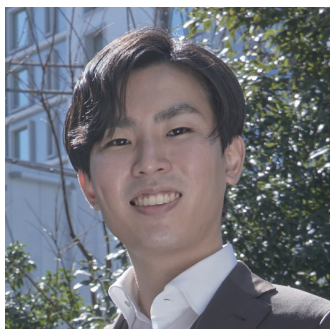
団体概要

「骨粗鬆症患者の早期発見・早期治療により骨折や要介護状態を減らし、健康寿命を伸ばす。」をビジョンに掲げ、胸部X線写真から骨粗鬆症を検査するAI医療機器を開発しています。どこでも、誰でも、手軽に骨粗鬆症の評価を受けられる未来を目指して。私たちは、骨粗鬆症診療のデジタルトランスフォーメーション(DX)により、高齢化社会が抱える長年の課題にブレイクスルーを起こすことを目指します。



First-in-Class の脂質代謝制御剤 PRD001 の開発

登壇者プロフィール



氏名: 細田 莞爾

役職: 代表取締役社長

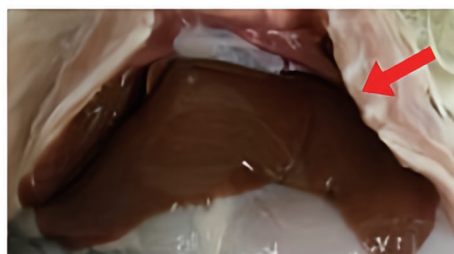
北里大学大学院薬学研究科を修了後、同大学薬学部にて特任助教として勤務。2021年9月に研究室の教授である供田洋と共に当社を設立し現職。厚生労働省主催 JHVS2022 Venture Award 審査員特別賞受賞。



Control
(通常食)



Control
(高コレステロール食)



高コレステロール食
+ PRD001



高コレステロール食
+ Atorvastatin

脂質代謝異常は脂質異常症や動脈硬化症など、様々な生活習慣病の原因として知られており既存薬も数多く存在する。一方で、家族性高コレステロール血症ホモ接合体 (HoFH) のように遺伝的に脂質代謝異常が引き起こされる希少疾患も存在し、HoFHには既存薬が効果不十分であり未だアンメットメディカルニーズがある。また、生活習慣病の中でも非アルコール性脂肪性

肝疾患(NASH/NAFLD)は承認薬がなく、新たな治療薬の開発が望まれている。当社は HoFH などの希少疾患や NASH/NAFLD にも有効な新しい作用機序を有する First-in-Class の脂質代謝制御剤 PRD001 を開発している。PRD001 は現在、GLP 毒性試験を実施中であり、2025 年内の Phase I 臨床試験完了を目指している。

団体概要

新たな作用機序を有する脂質代謝制御剤の実用化を目指して2021年に創業した北里大学薬学部発のスタートアップ。ノーベル賞受賞の大村智先生のもと、共同創業者の供田洋により真菌の培養液中より発見された新規低分子化合物を最適化したPRD001がリード化合物。現在はHoFHやNASH/NAFLDを対象に開発を進めており、GLP毒性試験が間もなく完了予定である。

株式会社 MentaRest



メタバースでメンタルを整える MentaRest (メンタレスト)

登壇者プロフィール



氏名: 飯野 航平

役職: 代表取締役 / CEO

1996年生まれ島根県出身。高知大学地域協働学部にて社会起業家について学び、在学中に子ども食堂を実施するNPO法人の理事に就任。卒業後、2019年大手IT企業に入社。営業職で新規営業トップ成績を残す。しかしタスク過多により適応障害と診断され休職を経験する。2021年にメタバースでメンタルを整えるカウンセリングサービス「MentaRest」を開発し、同年9月株式会社MentaRestを設立。

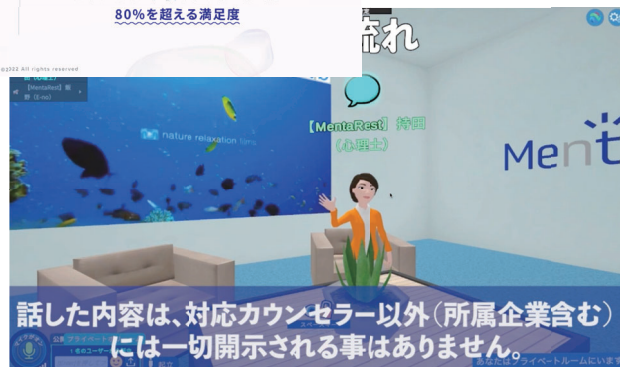
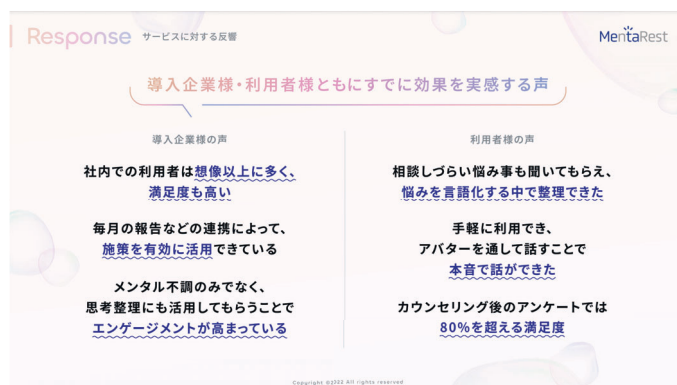


従業員向けのメンタル不調予防を目的とし、メタバース空間におけるアバターカウンセリングサービスを提供しています。健康経営やウェルビーイングの観点から、従業員のメンタル不調予防・休職や離職率低下・エンゲージメント向上の施策に注力する企業様から注目を集めています。一般的なカウンセリングの課題として”心理的利用ハードルの高さ”がありますが、

MentaRestはアバターを活用することで利用ハードルを低くしています。東京都市大学によるとアバターを使用する方が自己開示度合いが大幅に上がるという研究結果もあります。顧問精神科医が監修、在籍カウンセラーは心理資格「臨床心理士」「公認心理師」保有者に限定し、科学的根拠に基づくカウンセリングを提供しています。

団体概要

当社は私を含め、取締役の富川も会社員として働く中でバーンアウトし、一時休職を経験しました。その結果、予防の観点で日常的にメンタルヘルスと向き合う重要性を実感し、MentaRestを創業しました。当社はメタバース空間でアバターを活用することにより心理的利用ハードルを下げ、企業従業員が思考や感情の整理ができ、安定したパフォーマンスの発揮が行える仕組みを作ります。MentaRestの提供を通じ、「誰もが安心して働き、生活し、生き続けられる環境を整えること」の実現に向けて努力してまいります。



嫌な生理から「自分を知る」生理へ。 reanne kit の開発

登壇者プロフィール



氏名: 浅井 しの

役職: 代表取締役

子宮腺筋症の症状で酷い生理痛を持っているなど、女性特有の悩みを持つ。「浅井の悩みを解決する会社」として2021年11月に株式会社 asai を起業。生理に関する情報発信をするTikTokアカウントではフォロワー1.6万人。東京薬科大学生命科学部を2021年に卒業。

月経血を採取して健康状態をチェックする検査キットの開発。他人と比較することができない、生理が辛いのは当たり前という考えから子宮内膜症が発症してから発見されるまで平均8年かかると言われています。これまでタブーとされていた生理をあえて可視化することで女性のウェルビーイングに貢献します。

団体概要

2021年11月11日に設立し、これまで月経血の状態を観察するアプリ「reanne app」のリリース、月経で悩む女性のコミュニティ開発などに取り組んできました。2023年から東京大学情報理工学研究所竹内研究室とキット技術の共同研究を開始。

園児の睡眠を見守る、 AI搭載カメラ型午睡チェックシステム 「ベビモニ」

登壇者プロフィール



氏名:浦上 悟

役職:取締役

大手コンサル企業において社会イノベーション事業を担当し、ヘルスケア企業の戦略立案や海外進出、新規事業の立ち上げ等に従事。大手企業の戦略立案・営業改革・人事制度改革・業務改革・効率化・大規模システム構築など幅広い経験と実績を有する。ヘルスケア領域の社会課題を解決を目指し、2017年にEMC Healthcare株式会社を共同創業。



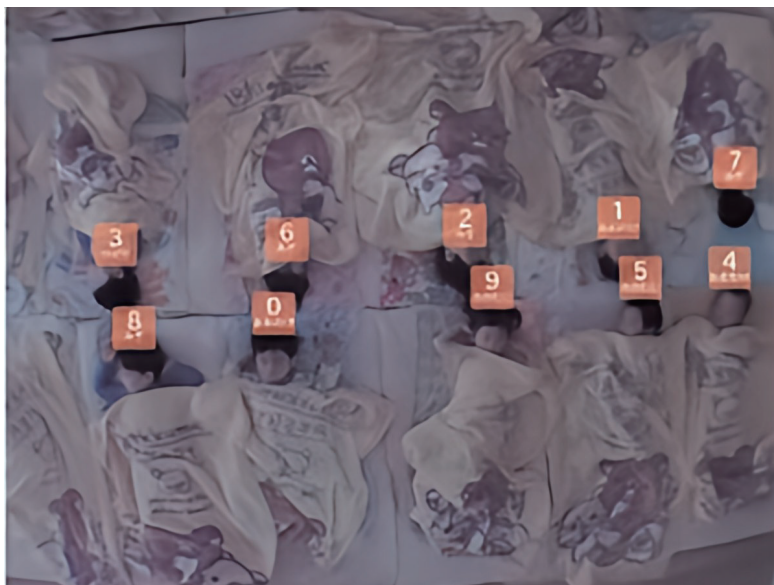
待機児童が解消されつつある中、保育業界のテーマは量から質に転換してきており、安全性向上が大きな課題となっている。保育現場での死亡事故のうち睡眠中の事故が約7割を占め、主な原因として乳幼児突然死症候群が考えられている。それに対応するために睡眠時の姿勢チェックが重要であり、保育士には睡眠中の園児の定期的な姿勢チェックが求められている。一方、保育士の労働環

境、業務負担、精神的負担も大きな課題であり、人材確保のためにも業務負担の軽減は業界全体のテーマとなっている。

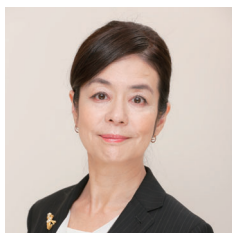
「ベビモニ」では、保育施設の天井に設置したカメラ・AIが自動で園児の姿勢を識別、結果記入、保存、監査対応を自動で実施、危険な姿勢を検知しアラートでお知らせといったサービスを提供することで、安全性向上と業務負担軽減の両立にチャレンジする。

団体概要

「地域社会で活躍するエッセンシャルワーカーを支えます」をミッションに、ヘルステックの力で社会課題を解決するスタートアップです。先端技術(データ分析、AI、IoT、センサー)を融合させたサービスを開発し、人の持つ力を最大限発揮できる環境を構築することで、エッセンシャルワーカーを中心にヘルスケアに関わる人々の生活を豊かにします。保育施設向けDXサービス「ベビモニ」と介護施設向けDXサービス「OwlCare」を開発、提供することで社会課題の解決を目指しています。



ビジネスコンテスト部門 最終プレゼン審査員



株式会社メディヴァ
代表取締役
大石 佳能子 氏



デジタルハリウッド大学大学院
特任教授
東京医科歯科大学
臨床教授 / 医師
加藤 浩晃 氏



ライフタイムベンチャーズ
代表パートナー
木村 亮介 氏



一般社団法人全国介護事業者連盟
理事長
一般社団法人日本介護ベンチャー協会
代表理事
齊藤 正行 氏



JICベンチャー・グロス・インベストメンツ株式会社
プリンシパル ライフサイエンス プロフェッショナル
鈴木 はな絵 氏



LINK-J常務理事/CEO
東北大学特任教授
曾山 明彦 氏



メディカル・ジャーナリスト
西村 由美子 氏



三菱UFJキャピタル株式会社
上席執行役員ライフサイエンス部長
長谷川 宏之 氏



EY新日本有限責任監査法人
パートナー / 公認会計士
藤原 選 氏

MEMO

がん患者とその家族向け がん治療副作用予測と症状管理 および栄養摂取サポート事業

登壇者プロフィール



氏名: 牧原 正樹

役職: 代表

名古屋大学大学院工学研究科(修士)卒業・グロービス経営大学院にて経営学修士(MBA)を取得・自動車会社にてエンジニアとして、デジタルツインを用いた開発および商品企画を経験。その後、IT系企業にて事業企画を担当。身内のがん闘病経験から、自宅におけるがん治療期の負担低減に関わるサービスの開発を志し、医師、薬剤師、がん学療法看護認定看護師、がん病態栄養専門管理栄養士と本プロジェクトを組成

日本のがん患者は年100万人規模で増加しており年々増加している。中でも、退院後の生活における治療副作用と栄養に関する問題は、食思不振、味覚障害など様々である。それらは、患者の体重減少を招き、QOLや生存率の悪化にもつながっている。一方、自宅における栄養の対策について、相談できる専門家に限られており、それらの知見は行き渡っていない。

我々は、通院でがん剤を行う患者に対して、がん種、抗がん剤、術式、個人特性等を用いて、個人のデジタルモデルを構築する。それらモデルを用いたシミュレーションから、副作用を事前に予測。その結果を用いて、一人ひとりに適切な症状管理および栄養摂取の介入を実施し、治療効率を向上させ、患者と家族の心理的負担を軽減する

団体概要

本事業は経営学修士をもつ医師、薬剤師、エンジニアといった専門家が協力し、開発してきた事業である。メンバーが専門分野を互いに越境し、医療とデジタルが深く連携できるチームとなっている。リーダーの牧原はデジタルツインに関するモデル化経験とビジネス構築経験を持ち、本事業を強く推進できると確信している。

「シェアヤ」AYA世代のがんとキャリアの経験談共有サービス

登壇者プロフィール



氏名:山崎 美紗

所属:産業能率大学
経営学部 経営学科

産業能率大学経営学部経営学科に在籍。高校1年生(16)の時に脳腫瘍が見つかり、高校3年生まで治療や長期入院を経験。小学校時代、犬猫の殺処分問題を知り、社会問題解決に取り組むと決心。中学高校では、動物愛護団体のボランティアに参加し、非営利活動では持続的に社会問題を解決することは難しいと気づき、産業能率大学経営学部経営学科に入学。第8回健康医療ベンチャー大賞で準優勝、企業賞を受賞。

2.問題と背景

AYA世代のがん患者は自分の将来が不安。他にもAYA世代は学生は学生生活から離されて孤独になることや新成人の方は経済的に不安定で就職や出産、家庭などの多くの問題を抱えている。そんな中支援は薄い。

【図表1】AYA世代のがん患者の悩みランキング

	15~19歳	20~24歳	25~29歳	30~39歳
1位	自分の将来 61.9%	自分の将来 68.3%	自分の将来 61.3%	自分の将来 53.0%
2位	後遺症 44.4%	仕事 41.5%	仕事 51.6%	仕事 44.8%
3位	体力の維持 41.3%	不妊治療や生殖機能 41.5%	不妊治療や生殖機能 50.0%	家族の将来 36.6%
4位	学業 38.1%	経済的なこと 36.6%	診断・治療 30.6%	経済的なこと 36.1%
5位	不妊治療や生殖機能 34.9%	後遺症・合併症 31.7%	後遺症・合併症 30.6%	不妊治療や生殖機能 34.4%

(参考)平成27~29年度厚生労働科学研究費補助金(がん対策推進総合研究事業)
「総合的な思春期・若年成人(AYA)世代のがん対策のあり方に関する研究」(研究代表者:堀部敬三) AYA世代がん患者家族向け冊子「AYA」p10
https://sya-ken.jp/wp-content/uploads/2021/05/AYA_20210601.pdf 2023年9月17日閲覧

AYA世代のがんとキャリアの情報共有サービス「シェアヤ」はAYA世代のがんの悩みを解決させるサービスです。AYA世代とは15~39歳のことで進学、就職、結婚、育児等のライフイベントが充実する世代です。また、AYA世代の患者さんは毎年がんに罹患する方の全体の4%しかいません。

そんなAYA世代のがん治療や治療後のキャリア、生活についての情報は調べてもな

かなか出てきません。また、入院中の病棟でもAYA世代のがん患者数は少なく同じ年代でがんと闘っている仲間に出会うことは難しく孤独感を感じます。この2つの問題を解決させます。AYA世代のがん経験者が少しでも不安を軽減させ、少しでも希望を感じてもらえるようなサービスを提供します。

4.サービス内容

ブログサイトのような情報共有サイトを提供する。

PC、スマートフォンでも利用可能。

情報不足や孤独感を無くすために主に4つのサービスを設ける。

記事投稿

ブログのように治療や就職などの情報を書き細かく情報を知ることができ治療や将来への不安が軽減される。

質問機能

悩み事を同じAYA世代に相談して不安を軽減できる。

プロフィール共有

病歴、年齢、職歴等の情報入力が可能。同じ病気、年代、キャリアの人に出会えて自分は一人じゃないと心強くなる。

チャット機能

ユーザー同士チャットでもやり取り可能。同じ年代や同じ病気の方とお話して仲間をつくることや知りたいことを知ることが出来る。

肺がん患者と医師に優しい、 「気泡の流動を活用した」 内視鏡生検技術の確立

登壇者プロフィール



氏名: 関口 翔斗

所属: 東京農工大学大学院
機械システム工学専攻
博士前期課程2年

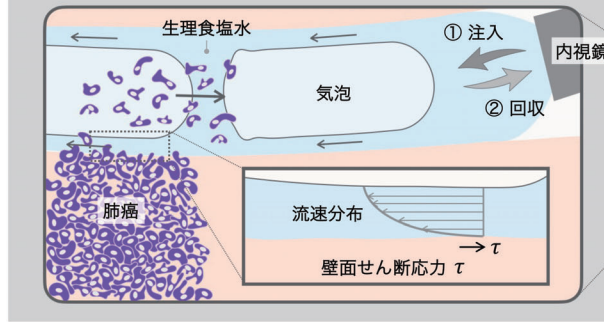
栃木県出身。2020年に小山工業高等専門学校機械工学科卒業後、東京農工大学工学部機械システム工学に編入学。2022年に同大学大学院に進学し、現在は田川義之研究室にて流体力学に関する研究を行う。目標に「工学の知見から生命を救う医療機器を創る」を掲げ、本発表の研究以外に、痛みの少ない無針注射器の実用化に向けた研究も行う。2024年からは博士後期課程に進学する(日本学術振興会特別研究員 DC1)。

団体概要

2013年設立の研究室。現在は教授1名、助教5名、学生18名のメンバーで構成され、国内外の大学・企業研究者も交えた活発な議論を行いながら研究を進めている。研究内容は流体力学を軸に、気泡や液滴、液体ジェットの挙動解明に関する研究、および衝撃波や応力場の先端可視化計測法の開発(さきがけ採択課題)を主に行っている。社会実装にも力を入れており、研究室のコア技術である液体ジェットを応用した、痛みの少ない無針注射器および高効率な車体塗装の実現に向けた研究開発も行う(AMED, A-STEP採択課題)。

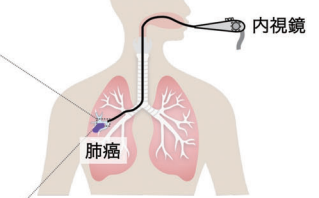
学術研究 (原理解明・検証)

- 気泡による癌細胞剥離メカニズムの解明
- マウスの腫瘍を用いた癌細胞剥離技術(気泡)の検証



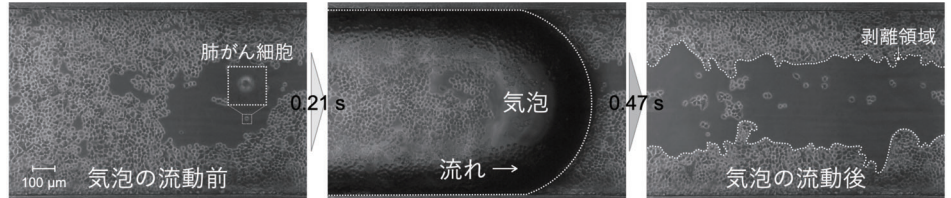
臨床応用

癌細胞含有率が高い
洗浄液の回収手法確立



技術開発

高効率に癌細胞を剥離する
気泡制御技術の開発



世界の死因で6番目に多く年間180万人も亡くなる肺癌は、癌の一部(組織や細胞)を検体として採取する生検によって肺癌の種類を特定してから治療が行われる。生検には主に内視鏡が用いられるが、従来の穿刺針等を用いた生検は高い侵襲性を有する。上記課題に対し、私たちは肺炎等の診断に多用されてきた「気管支肺胞洗浄(BAL)法」に着目する。この手技は気管支に注入した生理食塩水を回収する際の流動を活

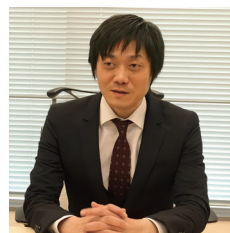
用した、従来よりも低侵襲・簡便な手技である。しかし、現在のBALは病理検査において遺伝子変異を検出する十分量かつ安定的な癌細胞の採取が課題である。そこで、私たちは「気泡の流動を活用する」ことで、効果的に癌細胞を剥離・採取できる新規BALの確立を目指している。現在は実用化に向けた基礎研究として細胞実験を行っている。

アイデアコンテスト部門 講評者



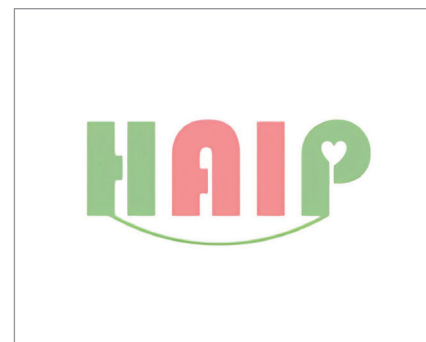
JICベンチャー・グロス・インベストメンツ株式会社
パートナー

松田 怜佳 氏



東京医科歯科大学
医歯学総合研究科人体病理学分野
シニアイノベーションプロモーター教員

山本 浩平 氏





エアウォーター
地球の恵みを、社会の望みに。

8° EIGHT ROADS™



MS&AD
MS&ADホールディングス



O.B.D.A.



次世代スマートヘルス
・ラウンドテーブル大阪



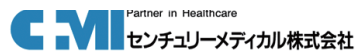


さつきアドバイザー



札幌市
City of Sapporo





医療法人社団たいようのき





CHCP



DCIパートナーズ
DCI Partners

TEP
TX ENTREPRENEUR PARTNERS
一般社団法人TXアントレプレナーパートナーズ

TNP
TECHNOLOGY NETWORK PLATFORM

DG Daiwa Ventures

DBJ DBJキャピタル株式会社
日本政策投資銀行グループ

DG Digital Garage



TERUMO



TOKIO MARINE NICHIDO
東京海上日動





東北大学
ナレッジ
キャスト

TOYOBO



TOYOTA



奈良東病院グループ
NARA HIGASHI HOSPITAL GROUP

NICORIO



NVCC

NOMURA
野村ヘルスケア・サポート&アドバイザー

もう半世紀すこやかに
株式会社 ハーフ・センチュリー・モア

•HAKUHODO•

次世代増養で未来をつくる
NexCulture





医療法人社団プラタナス



HOXIN



Matsumoto
Health Lab.



MIZUHO

MRI
三菱総合研究所

 **MUFG**
三菱UFJキャピタル

 **MUFG**
三菱UFJ銀行

MINLABO

MEDIVA
Medical Innovation and Value-Added

 **メディパル**

**SHUSAKU
YAMAMOTO**

LIP  **横浜**
Life Innovation Platform YOKOHAMA





第6回ヘルスケアベンチャー大賞

【日時】2024年10月25日

【会場】日本橋ライフサイエンスハブ / WEBライブ配信を予定

【主催】日本抗加齢協会 【共催】日本抗加齢医学会

<https://www.ko-karei.com/healthcare-v/>



Global Tech Innovator Competition 2023

【日時】2023年11月16日（2024年も開催予定）

【会場】オンサイト及びオンライン

【主催】KPMG ジャパン

<https://kpmg.com/jp/ja/home/insights/2023/01/kpmg-private-enterprise-global-tech-innovator-in-japan-2023.html>



Healthtech/SUM2023

【日時】2023年12月11～12日

【会場】室町三井ホール&カンファレンス

【主催】メドピア株式会社

<https://www.healthtechsum.jp/>



HVC KYOTO (HVC KYOTO 2024 Demo Day)

【日時】2024年7月（予定）

【会場】京都リサーチパーク

【主催】JETRO、京都府、京都市、京都リサーチパーク株式会社

<https://www.krp.co.jp/hvckyoto/>



MEDISO

【日時】通年

【会場】-

【主催】MEDISO

<https://mediso.mhlw.go.jp/>



Rise Up Festa

【日時】2024年7月1日

【会場】大阪

【主催】株式会社三菱UFJ銀行

<https://www.bk.mufg.jp/houjin/festa/index.html>



X-DOJO

【日時】次回未定

【会場】オンライン

【主催】XVC

<https://x-vc.jp/>





ZAKONE Night

【日時】 毎月開催（日時は要相談）
 【会場】 虎ノ門ヒルズビジネスタワー 4FARCH
 【主催】 Sleep Network Hub ZAKONE
<https://zakone.jp/>



ウェルネスバレー版アイデアボックス

【日時】 常時
 【会場】 オンライン
 【主催】 ウェルネスバレー推進協議会
<https://www.city.obu.aichi.jp/wv/torikumi/1026049/index.html>



ヘルスケア IT 2024

【日時】 2024年2月20～22日
 【会場】 東京ビックサイト 東ホール
 【主催】 インフォーマ マーケッツ ジャパン株式会社
<https://www.care-show.com/healthit/>



健康医療ベンチャー大賞

【日時】 2023年12月10日
 【会場】 日本橋高島屋三井ビルディング 日本橋ホール
 【主催】 慶應義塾大学医学部
<https://www.keio-antre.com/>



【第15回】 人事、労務アップデートセミナー～弁護士があなたの疑問にお答えします～
 問題社員への対応マニュアル 特別編（問題社員の対応のお悩みにお答えします）

【日時】 2024年2月7日
 【会場】 オンライン
 【主催】 Smith Gambrell Russell
<https://randstad.seminarone.com/risesmart20240207/event>



Beyond 米国進出シリーズ～その1：人材採用、資産取得、紛争対応～

【日時】 2024年2月20日
 【会場】 パンナスクエア
 【主催】 Smith Gambrell Russell



LINK-J

【日時】 通年
 【会場】 リアル・オンライン・ハイブリッド
 【主催】 LINK-J
<https://www.link-j.org/event/?category=events-main>





Japan Healthcare
Business Contest
2024

Healthcare

ジャパン・ヘルスケア ビジネスコンテスト2024

2024年1月16日(火) 会場:大手町三井ホール

!InnoHub

Healthcare Innovation Hub

Healthcare Innovation Hub (通称:InnoHub)は、2019年7月に設立された、ヘルスケアおよびライフサイエンスの分野に関連する、企業や団体、創業前の個人等からの相談をワンストップで受け付ける相談窓口です。

InnoHubで受け付ける相談内容は幅広く、資金調達(補助金・助成金を含む)や人材確保、実証実験の実施、営業販路拡大、海外展開など多岐に渡ります。また、相談内容に応じて、同分野でベンチャー企業等の支援を行っている個人である「InnoHubアドバイザー」や、事業会社・団体等である「InnoHubサポーター団体」の紹介を受けることが可能です。同時に、ヘルスケア関連のイベント等と連携し関連情報提供も行い、多面的な支援を提供することでヘルスケア・ライフサイエンス分野のエコシステム構築を目指しています。

InnoHubでは、ベンチャー企業等の相談者に対して支援を行う「InnoHubサポーター団体」を随時募集しています。InnoHubサポーター団体は、InnoHubやInnoHubアドバイザーを介して相談者とのマッチング機会を得ることが可能です。加えて、他のInnoHubサポーター団体やInnoHubアドバイザーとのネットワーク構築や、ヘルスケア関連のイベント情報を提供いたします。

【お問い合わせ先】

Healthcare Innovation Hub

(運営受託者：株式会社日本総合研究所)

Website : <https://healthcare-innohub.go.jp/>

E-mail : UN_6414.group@jri.co.jp

Access

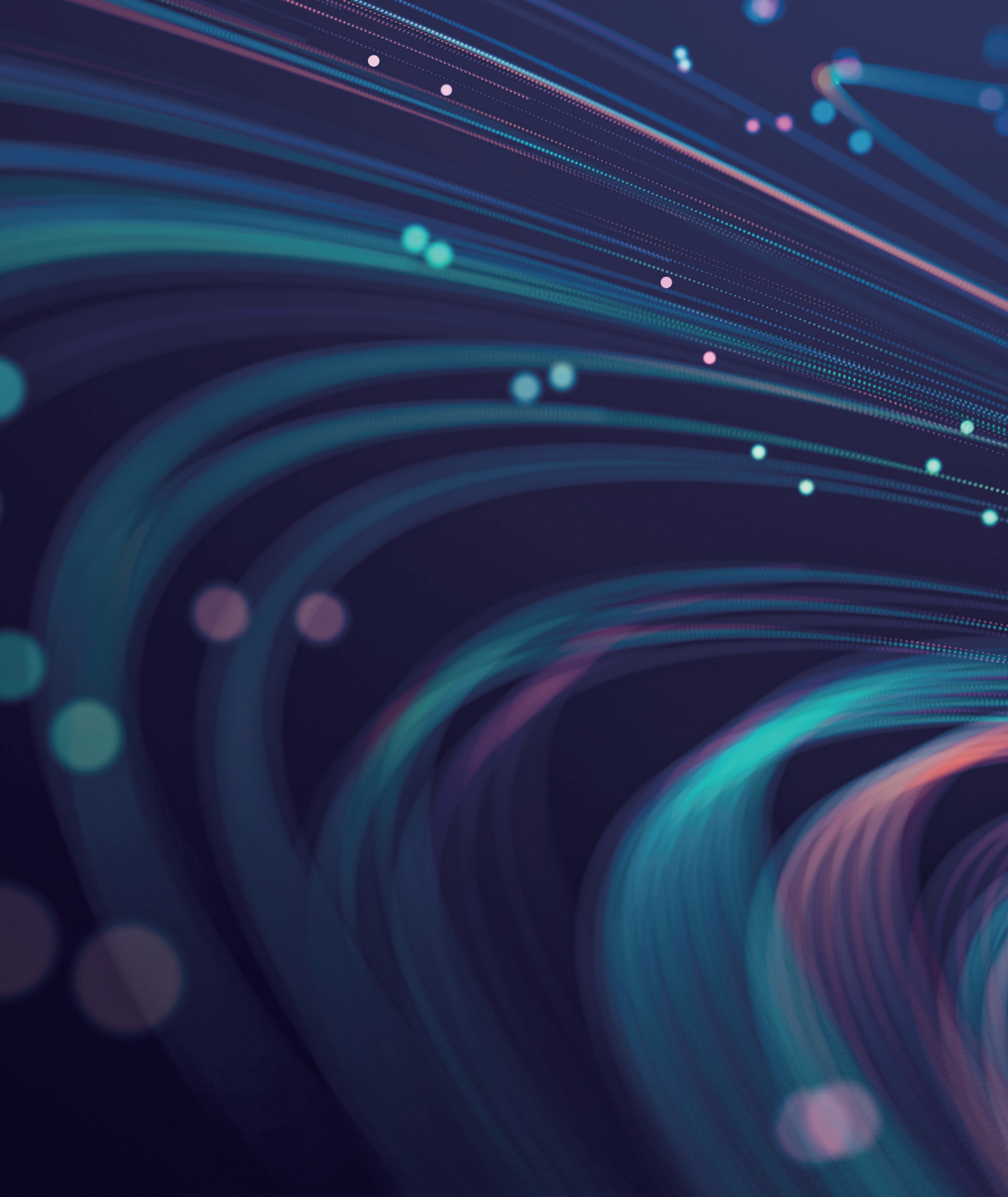
大手町三井ホール

〒100-0004

東京都千代田区大手町1-2-1 Otemachi One 3F

「大手町」駅 C4またはC5出口直結





経済産業省
Ministry of Economy, Trade and Industry

!nnoHub
Healthcare Innovation Hub